

設立60周年記念式典を開催

株式会社第一テクノ

水処理事業や非常用発電設備事業等のインフラ事業に取り組む「株式会社第一テクノ（向井善彦社長、東京都品川区）」は5月26日、都内のホテルで設立60周年記念式典を開催しました。式典では冒頭、同社の沿革を紹介した貴重な映像が流されました。あいさつした向井善彦社長は、クボタ、川崎重工業など取引先の来賓を前に、60年間に及ぶご愛顧への謝辞と、設立70周年に向けて今後の抱負を述べました。高橋正博会長の発声で出席者全員で乾杯を行った後、会場では談笑の輪が広がっていきました。

同社は昭和33年（1958年）11月、「第一工事株式会社」として設立されました。代表者は現社長の実父である向井善和社長。昭和30年代始め、離島の発電所の整備が本格的に始まりました。伊豆七島でも昭和31年から35年までの約5年間かけて、大島、利島、新島、式根島、三宅島、神津島、八丈島とディーゼル発電設備が順次導入されました。第一工事は、これら工事を全部請け負い施工しました。

初代社長の向井善和氏は、そもそも水力発電の発電機工事に携わっていました。水力の工事はドラフトの敷設工事から始まり、1年がかりが当たり前で、あまり時間を取られ過ぎるといっているので、より工事期間が短くて済む内燃力発電設備に仕事の比重を移して行ったといえます。

やがて時代は戦後の復興期を経て、高度経済成長期へと進み、自家発電設備の需要が増えて行ったと

いいます。それに伴い、基準の制定、規格の整備、様式作りがあちこちで始まりました。向井善和氏は当時の通産省、建設省、消防庁などから要請を受ける度に、電気工事業界の一員として協力してきたといえます。対外的に意見を申し述べるための電気工事の業界団体の必要性を痛感した向井氏は、企業経営と同時進行で「関東内燃力発電設備工事連絡会」や「（内発協の前身）内燃力発電設備協会」を結成しました。

標準仕様書や自家発電設備の試験方法などの作成に当たり、初代認定委員長として向井善和氏は関係官庁との橋渡し役を務められました。向井氏らによる堅実な活動がその後の内発協の誕生、自家発電設備業界の発展に繋がって行きました。

第一テクノは、2代目社長の赤木悦夫氏、3代目社長の高橋正博氏を経て、4代目社長に向井善彦氏が就任し売上高は200億円を超える企業に成長を遂げました。

設立以来、各種設備の計画・設計から施工・メンテナンスまでを真摯に一貫して手掛けています。“顧客満足ファースト！”と“社員家族の幸せファースト！”を合言葉に、引き続き、インフラ事業に邁進していく決意です。